

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800075		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	市川グループホームそよ風		
所在地	千葉県市川市本北方2-27-7		
自己評価作成日	平成26年11月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成26年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

㈱ユニマツそよ風の理念である『大丈夫 そよ風があるから』と近隣住民の方々や事業所の方々に言ってもらえるよう、市川グループホームでは『そばによう その心を忘れずに』をスローガンとして掲げ日々、入居者様本位であり続ける介護を目指しております。このスローガンには入居者様のそばに常に職員が寄り添い、共に生活をしているという意識を心に留め、入居者様・ご家族・職員全ての人々が一つの家族として生活していこうという想いが込められています。入居者様が今までできなかったことができたときに感じる喜びを職員全員が共有し共に感動できるように。その為に私たちが出来ることは何か？ご入居者様の笑顔の為に何が出来るのか？限界まで考え抜いて、明日に繋げていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「そばによう:その心を忘れずに」との理念を掲げ、「和楽:目指せ事故ゼロ」「待つ支援:その人らしくあるために」とのユニット毎の目標を掲げている。担当職員を中心に毎月モニタリングを行い入居者一人ひとりが自立して暮らすための課題とケアのあり方を担当者会議で関係者が話し合い現状に即した介護計画を作成する仕組みが出来ている。「入居者が主役」、職員は常に入居者の傍らに寄り添い共に一つの家族として生活するという思いを込め、今までできなかったことが出来た時の感動を共有する。新センター長の下、入居者の笑顔のために何が出来るのかを常に考え入居者の個別自立支援にチームワーク良く取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『そばにしよう。その心を忘れずに』を市川GHの基本方針として掲げ、職員・入居者様・ご家族とが共にひとつの家族として歩んでいける、そのような施設を目指している。	「そばにしよう、その心を忘れずに」を基本方針として掲げ、なごみユニットは「和楽」、のどかユニットは「待つ支援」との独自の目標を掲げている。入居者がその人らしくあるために常に職員が入居者の傍らに、入居者本位で職員・家族も共に一つの家族であり続けられるようなサービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日曜日の食材は近所のコンビニより配達・購入している。月に一度の歌のボランティアや北方保育園との交流会など、定期的に地域交流を図っている。また、散歩時の挨拶など日常時の交流も行っている。	毎月唄のボランティアに来ている。定期的に近くの保育園児が歌・遊戯披露や入居者に折り紙のメダル授与したり一緒にレクをしている。市川学園文化祭や吹奏楽演奏会、保育園の運動会見物に行く。7周年記念祭を近隣の方に案内したり、犬の散歩がてら世間話をして帰る方、毎週、近くのコンビニから食材を購入する等、日常的な付き合いをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室や認知症サロンなどの実施を検討しているが、現状として実施は困難で地域貢献として不十分であるといえる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・地域・ご入居者・行政の方々など多くの方に参加して頂き、意見を共有し改善に向けての取り組みやサービス向上に努めている。しかし、参加人数は減少しており、多様な意見交換が難しくなっている。	市の地域福祉支援課職員や家族の参加を得て、人事・研修・入居者など運営状況や行事・事故報告等を議題として、2ヶ月に一度定期的に開催している。意見交換が行われ、サービス向上に役立てるよう取り組んでいる。	参加者が固定化されており、今後民生委員、自治会や地域の方、ボランティアの方等幅広い方々の参加を計画しているとのことである。是非実現され運営推進会議を活かす工夫をすることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在の施設運営の状況として綿密な連絡が取れていないが認定審査会への参加など協力体制は取れている。事故や諸問題発生時は介護保険課にすぐに報告を行い指示を仰いでいる。	地域福祉支援課担当者とは良く連携し色々な相談にも良く応えて頂いている。事故や問題発生時は介護保険課に速やかに報告し相談に乗って頂いている。認定審査会や市のグループホーム協議会などで、市に職員の方々顔見知りになっており協力関係は築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットドアやエレベータードアの開放、ホーム玄関の手動化など行っている。権利擁護・身体拘束廃止研修に参加し、各自身体拘束に関する知識を習得し、身体拘束を行わないケアに努めている。	身体拘束排除宣言を目につきやすい場所に掲示し、職員一人ひとりに「身体拘束は犯罪です、4つの弊害と基本方針」など常に意識付けをしている。また研修を実施し講義内容を今後の業務にどの様に生かしていくかを記入する研修報告書を出させるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県研修・社内研修への参加を行い、知識を身に付けている。習得した知識を職員全体で共有し、お互いに注意を払い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加など学ぶ機会を設けているが、実際に生かす機会がほぼない。制度利用が必要と思われるご利用者が入居された場合、相談し活用できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時にセンター長・ケアマネからご家族に説明を行っている。不安点や疑問点などに関しては質疑応答の時間を設け説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月毎に運営推進会議を開催し、ご家族の意見を伺い、施設運営に反映できるよう努めている。面会時やサービス担当者会議などでご家族や入居者様の要望・意見を拝聴し、支援に繋げられるよう努めている。	グループホームそよ風便りで居室担当者が「近況・前月対比の課題・行事報告」等を手書きで記入送付して、家族にホームでの様子を知って頂き、意見や要望を言っていただき易くしている。「なれなれし過ぎる声掛け」や「家族も参加する行事日程を早く連絡して欲しい、手伝いたいから」などの要望を運営に反映させ、目指している家族と共に入居者を支援する運営に繋げている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター長・管理者・リーダーが運営に関する職員の意見や提案を取りまとめ運営に反映するよう努めている。ミーティングでの意見交換のほか、日々の業務の中で職員同士で支援に関する意見交換を行っている。	外出、園芸、広報、レク係があり、職員の自主的な意見を取り入れるようにしている。ミーティング時以外にもセンター長・管理者・リーダーが常に職員の意見を聞き取り集約し運営に反映させる仕組みが出来ている。目下、7年目を迎えた設備面の不具合を職員がリストアップしており、順次メンテナンスに取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改時に面談をし、各自職員の取り組みや目標達成、今後の展望などを把握している。また、業績評価を行い、それを元に給与設定に結び付けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人員不足により研修へ参加できる日を設けることが難しくなっており、外部研修への参加機会は大幅に減少している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度のグループホーム会議にて自他施設の抱える問題点の提示・検討を行い共有化している。社内交流はあるのだが、外部との交流は少なく、相互訪問などは実現できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者様の不安の訴えや要望には必ず傾聴し、表情や言動を観察しながら傍に寄り添い、意向や要望を引き出せるよう努めている。又、入居者様が自身の思いを表現できるように発言しやすい環境作りに努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居契約時にご家族より要望や不安点を伺い、解決に努めている。又、面会時は必ず言葉を交わすよう徹底し、センター長、管理者、居室担当者が話を伺い、支援に繋げている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居者様とご家族がいま何に困っているかお話の中から見極めサービス提供できるよう努めている。また、サービス担当者会議を開き、最新の状態に対応した支援に反映できるように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員本位ではなく入居者様本位の支援を心がけ、常に家族であると心に留めて、共に生活する者同士の関係を築く努力をしている。又、ご本人が出来ることは行っていただき、その中から課題を見つけ克服出来るよう支援に努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>居室担当を中心としてご家族との交流を図っている。行事・サービス担当者会議・運営推進会議への参加をお願いし、ご家族と施設とで良好な関係を築けるように努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>在宅時のご友人からの電話・手紙・面会やご家族との外出などに直ぐに対応できるよう心がけている。会話の中で馴染みの地名や人名などが出てきたときはご家族に伝えていく。</p>	<p>冠婚葬祭、お墓参りやお見舞い、馴染みの美容院など家族にいつでも連れて行っていただけるようにしている。宿泊旅行や外食、真間川へのドライブなど、入居者が会話の中で発した地名や人名を家族に伝え対応して頂いている。元の職場の同僚が訪ねてきたり、海外の友人との電話の取り次ぎなど馴染みの関係を大切に支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士の関係性を把握し交流を持てるように支援し、孤立しないよう心掛けている。必要に応じて職員が間に入り、会話の橋渡しや見守りを行っている。 3/8</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な場合、いつでもフォローできるように努めているが、現状としては行えていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本位の支援を常に心がけ、日々の言動に注意を払い要望や意向の把握に努めている。入居者様本位でも理解できないときはご家族にも協力していただき、ご家族を交えながら意向把握に努めている。	職員達は共に暮らす中で常日頃から傍に寄り添い、表情や一寸したしぐさ等を細やかに観察し、職員全員の話し合いの中から本人の思いを特定できるよう努めている。言葉が表出できない入居者の口から初めて「はい」という返事が発せられたという嬉しい話は、管理者・ケアマネジャー・職員が一丸となって取り組んでいる成果の具体的な一例として挙げられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実地調査及び面談、アセスメントに基づく基本情報の作成を行う。入居後はケアプラン作成時のアセスメント・基本情報の更新を行い、職員間で情報共有を図り支援に努めている。又、会話の中で昔の生活を思い出していただき活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	市川GHの目標『そばにしよう。その心を忘れずに』を目指し、入居者様のそばには常に職員が寄り添い、ともに生活している。その日毎の体調や顔色などを把握し、日々変化する心身状況について情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の開催や居室担当を中心としたカンファレンスの実施等による意見交換を行い、チームとしての支援が出来るように努めている。	居室担当者を含め職員から出された意見やケアマネジャーの見解を持ち寄ってサービス担当者会議を開催している。会議には職員の他家族も参加し、医師・看護師の意見も取り入れて介護計画は作られる。参加者それぞれの意見を聴取し議事録に纏めている。ナマの声をそのまま記述するんだ充実した会議内容が窺える。モニタリング実践記録票で職員がモニタリングを毎月実施し、所定の評価基準に則った詳細な評価を行っており、当にチームで現状に即した介護計画作成となる仕組みが出来ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化であっても見逃さないよう個別ケース記録に記入している。特変時は介護日誌・時系列ケース記録に記入。心身の状態変化を分かりやすく共有できるよう工夫している。当日出勤者全員で記録を記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様自ら要望や希望を訴えられた時は出来る限りその要望に沿えるように努め、必要に応じてカンファレンスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	火曜日のヤクルト販売、日曜日のコンビニからの食材購入及び配達、地元の精米店からの米の購入などを行っている。職員の働きかけにより地元保育園との定期的な交流会が実現した。庭はドッグランとして整備をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携を結び、綿密な連携を取り、入居者様の状態変化があった場合、往診以外であってもすぐに対応していただける体制を整えている。ご家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診をして頂くなど様々な選択が可能である。	今迄からのかかりつけ医の受診は家族対応となっている。月に2回の往診を受けており、その際気付いたこと等は個別ケース記録・介護日誌に記入し伝達している。体調変化に応じて往診以外でも直ぐに対応できる体制を整えている。また、週に1回訪問歯科も受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状態変化把握に努め、気づいたことは個別ケース記録・介護日誌に記入し情報共有し、訪問看護時に伝えている。看護職と医師も密接な連絡体制にあり安定した健康状態の維持に結びついている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携と協力病院と良好な関係が築けており、入院時には病院へ赴き医療関係者及びご家族と話し合い、心身の状況把握や退院へ向けたケア方針の作成などを行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応・看取りに関する指針の説明を行い書面に署名していただく。実際に重度化しターミナルケアが必要になった時、職員・ご家族・医療職間で話し合いの場を設け、文書による合意を交わしている。職員には研修参加により看取り方針を共有している。	提携医療機関と24時間オンコール体制を整備している。入居契約時に「重症化した場合の対応・看取りの対応に関する指針」で説明を行い、書面に署名して貰っている。重症化しターミナルケアが必要になった場合、家族・ホーム・医師で話し合い、最適の方法を採っている。今年度は1名の看取りを経験した。職員は研修を通じて看取り方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署協力のもと、年に2回の消防訓練と避難訓練を実施。その際に消火器・AED使用の講習を依頼している。消防署主催による普通救命・上級救命講習の受講。知識取得、技術向上に励んでいる。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々へ消防・避難訓練への参加を呼びかけているが、参加していただくことはほぼ無い。その為、地域との協力体制が築いていない。	消防署指導による消防・避難訓練と夜間想定避難訓練を含めて年2回実施している。消防から、誘導の際の優先順位を決めること等の指導をして貰った。緊急連絡網と非常時直ぐに駆けつけられる職員を5名選定している。また、災害に備えた水・食料の備蓄もできている。	利用者全員を無事に避難させるために肝心な事は、まずホーム自身が出来ることを手際よく且つ迅速に実行できるスキルを身につける事である。避難訓練の頻度を更に増やし、特に夜勤職員の習熟度を上げられるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人を人生の先輩であると尊敬し、その方の思いを尊重し、その方が心地良いと感じていただけるような声掛けを目指している。又、理解しやすい言葉を考えて声掛けをしている。	親しみを込めた声掛けになるよう留意しつつ、人生の先輩であるという認識を持ってなれなれしい言葉にならないよう、職員同士がお互いに注意合っている。トイレへのいざない時には他の利用者に気付かれないよう気を配り、プライバシーの確保に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様をご自分の意見を表現しやすい環境作りを心掛け、ご本人の要望がある場合、出来る限り要望に沿えるように努めている。表現が難しいと思われる方には二択や三択の質問をして選んでいただくなど、出来る限りご本人の自己決定を尊重している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の人員体制にもよるが、入浴など職員都合となることもあるが、基本的にはその日のご自身の行動を自己決定して頂けるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時の洋服は出来る限りご自分で選んでいただくようにしている。ご本人の要望により定期的な訪問理美容を受け入れカットや毛染めを行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとのイベント以外でも、日曜日などは食材配達を中止し、バイキングを行ったりお寿司や釜めしなどを取ったりしている。お好み外出ではご家族対応にて外食される方が多い。職員と入居者様が共に行う食事作りへの声掛けは継続して行っている。	食前には、テーブル拭きをしたり料理の盛り付けをする利用者も見られ、出来ることは自分の役割として積極的に参加している。嚥下能力に応じてトロミ食や刻み食のひとつもあるが、出来る限り自然な形で食してもらえるよう努めている。日曜日にはバイキング・外食・出前やイベント食と食を楽しんで貰える工夫には枚挙にいとまがない。また家族の協力での外食や時に弁当を家族と一緒に居室で楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日個人の食事・水分摂取量を記録し、食事量の増減・有無の把握に努めている。それを元にその方にあつた分量を提供している。また、食事摂取が乏しい方には食事形態を変更したりするなどしてなるべく自然な形で召し上がって頂くようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。週に一度の歯科助手による口腔ケアおよび月に一度の歯科医による口腔内チェックがあり、入居者様の口腔内の清潔・健康状態を維持に努めている。現在、訪問歯科は2か所kg依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁したからといってすぐにパッドやリパパンへの使用変更するのではなく、入居者様の排泄のサイクルを把握し定時誘導するなど、自然な状態での排泄を心がけている。職員もその支援方針を理解しており、一人一人の排泄に向けた支援をしている。	基本的に自然排泄を目指し、便座に座って用を足せるようタイミングを見計らってトイレ誘導するよう努めている。この方法でオムツが取れた例も少なくない。便秘気味の場合も直ぐにクスリに頼るのではなく、運動や牛乳等の水分補給で対応するよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方であっても水分摂取や体操や散歩への参加などで体を動かしていただき、自然な排便を促している。又、便秘の原因を考え、食物繊維の多い食材を用いた食事提供など、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否が強い方に関しては十分な配慮を行い、誘導・声掛けが上手な職員で対応するなど工夫し自然な形での入浴に努めている。体力的に浴槽をまたいで入浴することが難しい方には体を冷やさないよう注意しシャワー浴対応としている。	週2回の入浴としており、時間帯は出来る限り利用者の都合に合わせてしている。入浴剤の使用や季節を実感できるゆず湯・菖蒲湯など、入浴を楽しんで貰えるようにしている。入浴拒否者にはいざない方の巧い職員がタイミングを見計らって対応している。浴槽を跨ぐことが困難な利用者には無理をせずシャワー浴としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はゆっくりと休んでいただけるよ日中の過ごし考えている。睡眠不足であったり傾眠がある方などへはご本人の意思を確認し、居室へ誘導し休息していただいている。夜間時の不安の訴えは傾聴し、トイレ誘導はその方の排泄・睡眠サイクルに合わせて誘導している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様別に服薬一覧表を作成し、薬の作用・副作用を記載し、薬への理解・把握に努めている。薬の変更があった場合、介護日誌・申し送りにて職員間で情報共有を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で今まで培ってきたものを活かし、ご自身の役割を見つけ出し参加できるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩の声掛けは継続しており、体調や気候に留意して散歩を行っている。また、季節毎に外出先を決めたり、その日の入居者様の気分でドライブへ行くなど外出の機会を設け気分転換を図っている。	日常的な外出は散歩で、ほぼ毎日声掛けを行い、身体能力に応じて、20分・40分コースを決めている。歩行可能な入居者と車いす入居者との組み合わせとか、3名の入居者に職員1名等のチームを作って実施している。また気分転換を兼ねてのイベント外出は計画的に行っており、近日中にクリスマスイルミネーションを観にドライブする企画をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レク時にお小遣いを持参して頂くこともあるが、実際に使っていただく機会はほぼない。ご本人が日用品等身近なものが欲しいときは一緒に買い物に行き支払っていただくことがある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご親戚・ご友人から電話を頂いた際には取り次ぎを行っている。入居者様本人から電話を掛けたいと訴えられることはほぼ無いが希望があれば施設の電話を使用させていただき連絡をしていただいている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアでは入居者様の好みのCDやピアノ演奏を流したり写真を飾ったりと落ち着いた空間作りに努めている。また、その月の行事や外出先での写真や散歩の際に摘んだ草花などを飾り季節感の演出も図っている。	天井が高めで圧迫感を感じない。季節柄クリスマスリー等の飾りつけをし、またBGMが流れている。ホールや廊下の壁面にはイベント外出時や利用者の食事風景の写真や習字等利用者の作品が飾られている。観葉植物や花も置いている。季節の花等は利用者が選んだものを飾るようにしている。温・湿度管理も行き届いており、落ち着いたある・居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が孤立しないよう職員が介入したり家具の配置を変えるなど工夫、入居者様が落ち着いて過ごせるようなフロアを目指し、落ち着いた空間作りに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で生活されていたときに使用していた馴染みのある物品や家具を配置し、使い慣れたものを活かすことで出来る限りご自宅の部屋に近い状態の居室作りをして頂き、居心地の良い空間作りに努めている。	居室入口の写真付きネームプレートが先ず目を引く。入居者が自分の部屋として安心して過ごせるように今迄使用していた家具や調度品がおかれ、仏壇を置いている部屋もある。また畳を敷いている居室もあって各居室とも一様でない。綺麗に清掃され清潔が保たれている。自分でできるひとは掃除機で自室の掃除も行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティングやカンファレンスを用いて「出来ること」「分かること」を把握・判断し、入居者様別に支援方法を検討している。又、ご自分で出来ることはやって頂き、いま出来ることを奪わない支援を心掛けている。		